

学園新聞

第715号

2019年
12月号

東京都東久留米市学園町
1丁目8番15号 電話 203-8521
042-422-1078
自由学園出版局

「共生共学」の学校づくりに向かって

学園長 高橋和也

自由学園は、キリスト教精神に基づき、「真の自由人をつくる」「よく生き、よい社会をつくる人を育てる」という教育目標を掲げ、「思想しつゝ 生活しつゝ 祈りつゝ」「自労自治」「生活即教育」というモットーのもと、生涯の土台となる人間教育に取り組んできました。

創立100周年を間近に控え、これらの変換することのない土台の上に、これまで培ってきた成果を踏まえて、現在の100年に向けての学校づくりを進めています。

この一環として、1学期に、今後段階的に男女の中等科・高等科が、「共生共学」の学校に向かうことをお知らせしました。その後、学内で、教科カリキュラム、生活カリキュラム、教育施設に分かれ、各部の教員からなるワーキンググループを中心にこの具体的な内容の検討を進めています。

今回、改革の時間的なスケジュールの大枠が決定したのでお知らせいたします。併せて「共生共学」という言葉について、また「探求の学び」について概要をお知らせします。

「共生共学」について

「共生共学」は、これからの学校が向かう方向を示す言葉です。「共生」は「共に生きる」ということですが、この言葉には3つの意味をこめています。

第一に、人間の共生です。現在私たちの社会は、かつてなく急速な勢いで、多様化が進んでいます。このような時代に私たちが目指したい社会は、さまざまな異なる背景や文化、価値観を持った人々が互いを尊重しつゝ共に生き、違いを力として自分も他者をも大切にできる平和な世界です。

自由学園は新しい時代を創る人が育つ学校として今まで以上に、生徒たちがさまざまな

な価値観を持つ他者と深く交わり、協働し、その中で自分切で考える経験を積み重ねることができると期待しています。これは、ダイバーシティの時代の教育の重要な役割です。

共生は一つの型への同調を求めたものではありません。多様な一人一人の個性や関心を尊重し、それぞれがその人らしくあり、主体的探求的に学ぶ力を身に付ける学びの場を目指します。

第二は人間と自然との共生です。これは人間が地球上のすべての命あるものと共に生きる関係を築くという意味です。人間中心の生き方を見直し、他の命あるものと共存できる姿勢を身に付けること、その土台となる自然に対する感覚を身に付けていることは、持続可能な世界を実現し、地

球環境を守る上でもとても大切なことです。これはエコロジーとサステナビリティに関わる問題です。

私たちが次の100年に向かって目指す学校は、共生社会の小さなモデルとして、年齢・性別・国など、さまざまな違いを持った人が共に生き、学び合うことができる学校です。女子部、男子部が一つの学校になることはゴールではなく、この大きな目標に向かっての第一歩です。また現在積極的に進めている海外との交流や環境教育の体系化も、人と自然との共生に向かう学校づくりの一環です。

そして第三に、キリスト教精神の上に建つ学校として、これまで以上に地域や世界の課題、人間と地球の問題への行動を起こし、愛をもって社会に働きかけていく学校を目指

指すということです。自由学園ではこれまでも、仲間と共によい社会をつくり、自然と共に生きる姿勢を身に付けることを大切にしてきました。「共生共学」は「共生共創」と言い換えることができる言葉です。

自由学園独自の「探求の学び」について

新しいカリキュラムにおいてこれまでと大きく異なる点は生徒の主体的な学びを中心とする「探求」を取り入れることです。

自由学園は伝統的に学業報告会や「張り出し勉強」など、ある期間集中して一つのテーマに取り組み特徴的な学びを行ってきました。新しく始める「探求」ではこれを年間を通じて行い、さらに各人が自分自身の問題意識に従いテーマや課題を選び、主体的・協働的に学びを深める計画です。それぞれが「本質的な問い」を繰り返しながら、自ら進める学びとなることを期待しています。現在、大きな共通テーマとして自由学園が大切にしてきた環境・文化・創造・平和・生命・人権などが上がっています。

一般に課題解決のための学びには「探究」の文字が用いられますが、自由学園では、その問いが最終的に、「真理の探求」「生きる意味の探求」につながる学びとなることを目指して、「探求」の文字を用います。

なお、新しいカリキュラム案は以下の5つの学びの柱に基づき検討しています。

- ①キリスト教精神、人生の問いへの気付き
- ②多様な個性の尊重と他者との協同する学び
- ③豊かな感性・知性・身体性、多様なデザイン力・表現力への学び
- ④生活即教育・生活即学問・生活即探求、シテイズンシップへの学び
- ⑤リフレクションの文化が共

有・継承される学び

「共生共学」の学校への移行について

「共生共学」の学校への移行は2024年3月までの4年間をかけて段階的に丁寧に進めます。始めに現在別々の内容となっている教科カリキュラムの内容を共通のものとし、その後、第2段階として生活を共にする体制に移行します。

教科カリキュラムの統合は、まず2021年に中等科で、そして翌2022年に高等科で行います。現在、カリキュラムの具体的な内容の検討を進めています。

教科カリキュラムの統合後、2024年までに中等科は3年間、高等科は2年間、基本的には現在の女子部、男子部に分かれたままで学校生活を継続します。その間に生徒たちの意見も取り入れつつ、生活カリキュラムを統合する体制を整えていきます。諸手続きなど、不確定要素はありますが、2024年の新入生からは同じ教室で学ぶ体制になり、同時に高等科3年生以下の男女も共に学び、全学年のカリキュラムの統合が行われる予定です。

以上は制度上の変更を伴う変更ですが、男女の共修のプログラムは実質的には、平和週間の学習、フィンランドの交換留学、デンマークやカンボジアの研修旅行などにおいてすでに始まっています。

また、今年の学業報告会では、これからの学校を考える女子部生、男子部生の合同グループも立ち上がり、「未来の自由学園を考える」シリーズ「良いデザインへの道のり」新しい学びの空間をデザインしよう」という2つのテーマで探求的な研究を行いました。学校への提言を含む力のこもった報告でした。次年度以降もこのような取り組みを進めていきます。